

**「事業名：災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」**

長崎大学（共同申請：福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学）連携市町村：富岡町、川内村、大熊町  
現地拠点：福島県双葉郡川内村大字上川内字小山平15-1/富岡町大字本岡字王塚622-1/大熊町大字大川原字南平1717

**事業のポイント**

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町や大熊町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらに国際放射線防護委員会や世界保健機関といった国際機関と連携して世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築します。

**人材育成目標**

1. 災害・被ばく医療科学分野の正しい知識を持ったうえで、福島の復興、発展を主導できる人材を育成します。
2. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、国内において本分野を担う人材を育成します。
3. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、グローバルに本分野を担う人材を育成します。

**2021年度の活動内容**

1. 川内村、富岡町、大熊町において、「住民と行政、専門家が一体となった原子力災害からの復興モデル」を形成します。
2. 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学と連携して福島県下の若者世代を対象とした放射線についての集中セミナーを川内村において行います。
3. 世界各国の災害・被ばく医療科学の研究者が参加する国際セミナーを川内村・富岡町においてオンライン開催します。
4. 原発関連企業や原発立地自治体職員等を対象とするセミナーを開催し、原子力災害からの地域復興における住民、行政、専門家や企業等との連携の重要性について学んでいただきます。
5. 全国の原発立地自治体、周辺自治体の教職員を対象とした「放射線被ばく影響学セミナー」を川内村からオンライン開催し、原発立地自治体や周辺自治体における被ばく影響学の教育向上に貢献します。

**取り組みによって得られる成果**

上記のような取り組みを行うことで、福島県浜通りに「災害・被ばく医療科学」のグローバル人材を育成し、「復興知を学ぶ」知の交流拠点を構築します。

